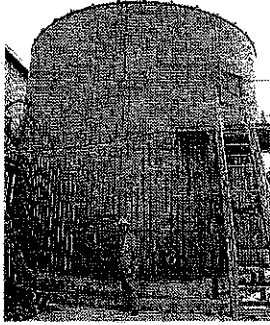


うどん発電



廃棄うどんからメタンガスを作る直径8
mのタンク＝高松市

高松 廃棄麺を使用

廃棄されたうどんを使って電気を作る事業を、高松市の産業機械メーカー「ちよだ製作所」が始める。うどんを発酵させて作ったメタンガスを燃料にする。今月末から四国電力に売電を始める。

同社は、廃棄うどんを原料にバイオエタノールの生産をすでに進めている。だが生産後も残りかすが出ることから、残りかすを37度で保温してメタンガスを発生させる発酵槽と、ガスを燃やしてタービンを回す発電機などを備えたプラントを今春に新設した。1日3tの麺を処理して年間最大18万kWhの電気を発電し、年間約700万円の売電収入を見込むという。今月19日に売電用のメーターを取る。

（柳谷政人）

り付ける予定だ。香川県内で年1千t規模の廃棄麺があることを知った同社の池津英二社長（74）のアイデア。同社のほか、回収した割りばしから再生紙をつくる「NPOグリーンコンシューマー高松」（高松市）や製麺会社「さぬき麺業」（同）などがメンバーで、うどんから作った燃料でうどんをゆでるため「うどんまるごと循環プロジェクト」と名付けている。

類 型	25年 12月 14日	資料No.	33面
掲載紙	朝日 日経 四国 徳島 愛媛 高知 その他()		